

あなたのまちの国有林

宮古八重山流域における国有林野事業の取組



浦内川とマングローブ林



サキシマスオウノキ巨木



ウタラのオヒルギ巨木

九州森林管理局 沖縄森林管理署

宮古八重山流域の概要



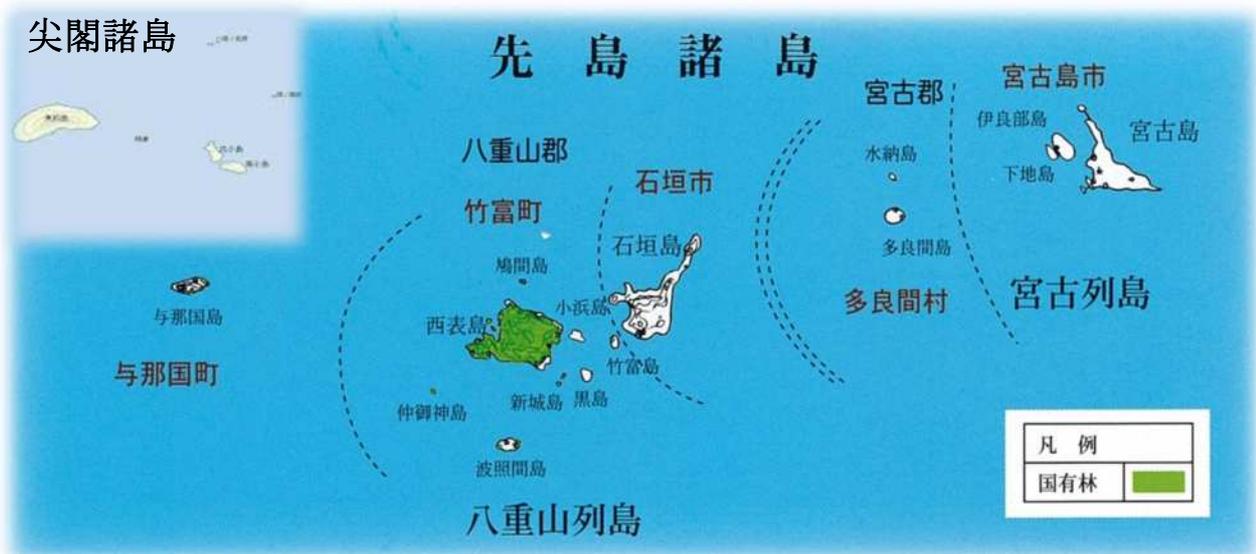
サガリバナ

1.流域の概況・特色

(1)位置及び面積

宮古八重山流域は、沖縄本島から300～450km離れた日本列島の最南西端に位置し、先島諸島と呼ばれています。宮古島を中心とした宮古列島と石垣島や西表島を中心とした八重山列島の島々からなり、宮古島市、石垣市、宮古郡、八重山郡の2市2町1村からなる面積81,888haで、沖縄県総面積228,101haの約36%を占めています。そのうち森林面積は40,936haで、流域総面積の約50%となっています。(沖縄の森林・林業(概要版)平成24年版による)

宮古八重山流域の位置図



(2)地 勢

宮古群島は宮古島を中心に流域の北東部にあたり、ほとんどの島々が琉球石灰岩質の低い台地状の地形で山地及び河川がなく、海岸線は浸食等の影響により急な崖状となっています。

八重山群島の西表島は、ほとんどが森林地帯で主要河川である仲間川、浦内川の河口・河岸部や海岸部にはマングローブ林が形成されています。また、周辺の島々は琉球石灰岩質の低い台地状となっています。石垣島は県内最高峰の於茂登岳を始め山々が島の北東に並列し、平地は南側の市街地方面に発達しています。与那国島は日本の最西端に位置し島の周囲は断崖が続き独特の景観を呈し、島の西部にはクバ(ビロウ)の群生地である久部良岳があります。

(3)気 候

流域の気候は亜熱帯海洋性気候で、年間を通じて温暖で寒暖の差が小さく月平均気温が20℃以下になるのは、12～3月までの約4ヶ月間です。年間の降水量は2,000mm以上に達するものの台風の影響に位置するため、年により片寄りがちです。

(4)流域の特色

流域の人口は、110,765人で、沖縄県総人口の約8%となっています。(平成30年3月の沖縄県市町村概要による)

交通は、宮古島の宮古島市、石垣島の石垣市が航空、海上及び陸上交通の拠点として各島々と連絡し、国道や県道及び市町村道等が整備されています。産業別就業人口は、第3次産業がサービス業を中心に年々伸びる傾向にあり、第1次産業と第2次産業は減少しています。第1次産業である農業生産では、さとうきび及びパイン栽培と肉用牛の飼育が主体で、漁業ではマグロの1本釣り漁を中心に近海漁や養殖が行われています。

2. 国有林の概況・管理経営



流域内の国有林野は竹富町と与那国町に所在し、その面積は25,026haで要存置林野24,648ha、不要存置林野378haとなっています。

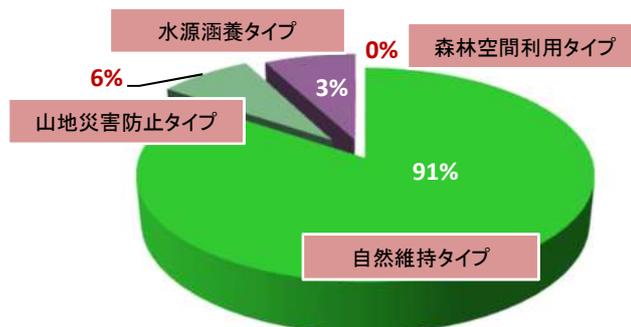
なかでも、竹富町の西表島は沖縄島に次ぐ大きな島で、沖縄森林管理署が管轄する国有林面積の約68%がここにありま。国有林の多くは国立公園、保安林に指定され、また、**森林生態系保護地域**として設定されています。このなかには史跡名勝天然記念物指定地や特別天然記念物に指定されているイリオモテヤマネコ、カンムリワシ等の珍しい動物が生息し、ニツパヤシ、ヤエヤマヤシ等の貴重な植物群落も分布しています。

また、浦内川、仲間川及びヒナイ川地区の保護林の一部に自然休養林が設定され、観光やレクリエーションなどの目的で利用されています。

このため国有林(要存置林野)の自然環境を維持しつつ、国土保全、水源かん養機能など公益的機能や保健文化機能の発揮を高めていくことがますます重要となっています。具体的には、国有林の管理経営に当たっては、公益重視の管理経営を一層推進することとし、個々の国有林を重視すべき機能に応じて、「山地災害防止」「自然維持」「森林空間利用」「快適環境形成」「水原涵養」の5タイプに区分し、公益林として適切な施業を推進することとしています。

なお、与那国島では、全体で約64haの不要存置林野が所在しています。

本流域の国有林の機能類型別面積割合



● 山地災害防止タイプ (1,453ha)

山地災害防止及び土壌保全機能の発揮を第一とする森林です。

● 自然維持タイプ (22,481ha)

原生的な森林生態系や希少な生物の成育・生息する森林など属地的な生物多様性保全機能の発揮を第一とする森林です。

● 森林空間利用タイプ(1ha)

保健、レクリエーション、文化機能の発揮を第一とする森林です。

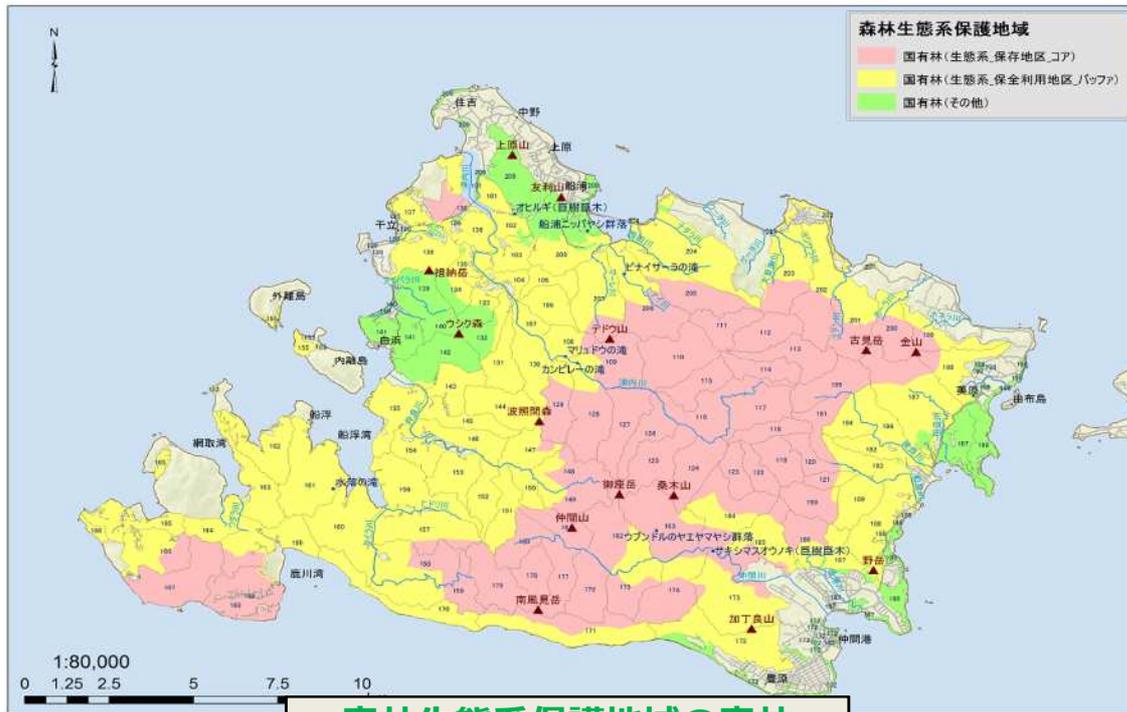
● 快適環境形成タイプ(0ha)

快適環境形成機能の発揮を第一とする森林です。(本流域でこのタイプに区分した国有林はありません。)

● 水源涵養タイプ(713ha)

水源涵養機能の発揮を第一とする森林です。

(注) 森林生態系保護地域は、保護林(貴重な森林を保護するために設定された区域)のひとつで、原始的な天然林を保存することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究等に資することを目的として、日本の主要な森林帯を代表する原始的天然林が1,000ha以上まとまっている区域などが設定されています。



森林生態系保護地域の森林



国指定天然記念物



竹富町の国有林

竹富町は総面積33,439haで16の島々(有人島9、無人島7)からなる島嶼町です。国有林は西表島に集中し島全体の約85%を占め、24,647haが要存置林野となっています。

島の中央部には古見岳(470m)、波照間森(447m)、テドウ山(442m)等400m級の山が連座し、山ひだが細く浦内川や仲間川をはじめ大小の河川が複雑に入り込んでいます。

天然林はスダジイやオキナワウラジロガシ等の原生林と二次林が主体で、河口や河岸部には広大なマングローブ林等が発達し、素晴らしい景観を呈しています。また、人工林は島西部中央にリュウキュウマツの播種による分収造林地があります。この国有林の管理は大原と租納の森林事務所が担当しています。

国有林の取組

① 希少野生動植物種保護管理事業

国有林野内における希少な野生動植物種の保護管理をより積極的、計画的に推進するため希少野生動植物を対象として、「個体の保護・保全等に係る巡視」、「生息、生育環境の維持整備に必要な森林等の保護管理手法の調査」、「生息、生育環境の維持整備」、「その他希少野生動植物の保護に資するための事業」を行う「希少野生動植物種保護管理事業」を平成5年度から継続して実施しています。

西表島においては、国指定の特別天然記念物であるイリオモテヤマネコ、カンムリワシを対象種として選定し、巡視による生息分布把握のための情報収集や自動カメラによる生息環境等の調査を行っています。

② 保護林の保護・保全

西表島の国有林は、マングローブ林のほかスダジイ、タブノキ、オキナワウラジロガシなどを含む亜熱帯であること、過去に伐採が行われたこともあるが、植物群落全体の種の組合せが原生林に極めて近いと考えられ、学術的にも非常に価値が高いことから「森林生態系保護地域」に指定し、その保存を行っています。

▼自然休養林標識板



仲間川・浦内川・ヒナイ川地区に2,052haの自然休養林を設け、森林レクリエーション等を楽しんで頂いています。



▲ヒナイ川地区 カヌー体験



▲仲間川地区 観光船



▲浦内地区 マリユドゥの滝



仲間川に広がるマングローブ林



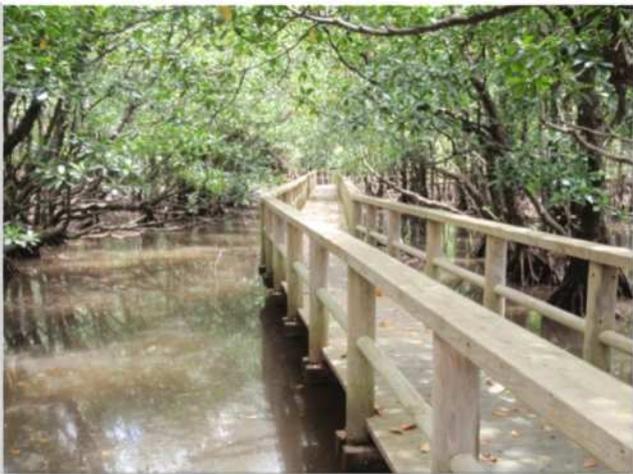
ヒカゲヘゴが茂る大富遊歩道



潮害防備保安林



アダン



仲間川支流に設置の木道



オヒルギ群落

与那国町の国有林

与那国島は周囲27.49km、面積2,896haの狭小な島で、宇良部岳(231.4m)、久部良岳(195.6m)の山系が東西に走り、森林面積は1,092haで島全体の約38%を占めています。国有林は不要存置林野が64haあり、内24haは潮害防備保安林となっています。この国有林の管理を大原森林事務所が担当しています。



▲日本最西端の碑



▲祖納地区（役場所在地）



▲与那国馬



▲西崎から久部良港と久部良地区



▲立神岩展望台（与那国町貸付地）と周辺の眺望



▲東崎方面



▲立神岩



▲ボタンボウフウ（地方名：長命草）



▲肉用牛の生産に貴重な採草地の貸付



▲軍艦岩

宮古八重山流域の国有林のデータ



1. 市町村別・機能類型別・林地面積

(単位 : ha)

区分	山地災害防止タイプ		自然維持タイプ		森林空間利用タイプ		快適環境形成タイプ	水源涵養タイプ	合計	
	うち、土砂流出・崩壊防備エリア	うち、気象害防備エリア	うち、保護林	うち、レクリエーションの森						
竹富町	1,453	1,234	219	22,481	22,371	1	—	—	713	24,648

区分	人工林	天然林	その他
面積	1,465	22,315	694

森林事務所	関係市町村	要存置林野面積	不要存置林野面積
大原	竹富町	10,976.76	248.85
	与那国町	—	63.96
計		10,976.76	312.81
租納	竹富町	13,670.74	65.68
計		13,670.74	65.68
合計		24,647.50	378.49

2. 保安林・自然公園等の面積

種類	細分	面積(ha)
保安林	水源かん養保安林	16,107.97
	土砂崩壊防備保安林	648.29
	防風保安林	80.76
	潮害防備保安林	218.22
	保健保安林	3,299.84
計		17,184.17

注) 保安林の計は種類ごとの重複関係を除く面積。



ハイビスカス

種類	細分	面積(ha)
国立公園	特別保護地区	4,614.01
	第一種特別地域	9,242.25
	第二種特別地域	2,835.61
	第三種特別地域	379.36
	普通地域	112.94
鳥獣保護区	特別保護地区	9,999.28
	普通地区	219.15
史跡名勝天然記念物		461.49



ゴバンノアシ

南風見治山工事施工状況



→→→



→→→



平成23年度に木材を利用した治山工事を施工し、現在では植生が回復し緑化が進んでいる状況がうかがえます。(施工直後から約6ヶ月後の緑化の進行状況)

3. 保護林の一覧

種類	名称	面積(ha)	所在地	選定理由・特徴等
森林生態系 保護地域	西表島	保存地区 9,999 保全利用地区 12,367 計 22,366	八重山郡 竹富町	<p>原始的な天然林を保存することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究等に役立てるとともに、これらの森林を後世に引き継ぐことを目的とします。</p> <p>マングローブ林の外、スタジイ、タブノキ、オキナワウラジログシを含む亜熱帯林で、このような原始的な天然林が相当程度まとまりを有した地域で、更に植物群落全体の種の組み合わせは、原始的に極めて近いと言われており、学術的にも非常に価値が高い。</p>
植物群落 保護林	船浦 ニツパヤシ	4	八重山郡 竹富町	<p>ヤシ科の1属1種で、灌木状・雌雄同体でのヤシであり、我が国唯一の自生地である船浦のニツパヤシ群落保護のためである。</p>

4. レクリエーションの森

種類	名称	面積(ha)	所在地	選定理由・特徴等
自然休養林	西表	浦内川地区 1,013 仲間川地区 640 ヒナイ川地区 399 計 2,052	八重山郡 竹富町	<p>河川流域に生息するマングローブ林、イタジイ、オキナワウラジログシなどの亜熱帯常緑広葉樹やその他の亜熱帯性の植物が多く、自然環境に優れ、国指定特別天然記念物のイリオモテヤマネコやカンムリワシが生息する地域で文化的価値がきわめて高く、浦内川と仲間川では、多く観光客が河川を中心とした観光船やカヌーを利用して訪れ自然景観を堪能しています。また、ヒナイ川地区ではカヌーによる遊覧やピナイサーラの滝のツアー見学が主体となっています。なお、仲間川地区内の大富遊歩道沿いには亜熱帯樹木展示林が約10haあり、自然観察などの場として利用されています。</p>



ユツンの滝



ピナイサーラの滝



国民の森林・国有林



カンピレーの滝



マヤグスクの滝



サンガラの滝

局・署・森林事務所の所在地等

名 称	所 在 地	電話番号等
九州森林管理局	〒860-0081	電話 050-3160-6600
	熊本市西区京町本丁2-7	FAX 096-355-3891
沖縄森林管理署	〒900-0025	電話 050-3160-6260
	那覇市壺川3-2-6壺川ビル3階	FAX 098-918-0211
租納森林事務所	〒907-1542	電話 0980-85-6201
	八重山郡竹富町字西表689	FAX 同上
大原森林事務所	〒907-1434	電話 0980-85-5308
	八重山郡竹富町字南風見201	FAX 同上
安波森林事務所	〒905-1504	電話 0980-41-7328
	国頭郡国頭村字安波209	FAX 同上
高江森林事務所	〒905-1201	電話 0980-43-2123
	国頭郡東村字高江466-1	FAX 同上

九州森林管理局ホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/>

(森林管理署等のホームページは、九州森林管理局のホームページからご覧いただけます。)

ピナイサーラの滝